

普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ  
第3回会合 議事要旨 (案)

## 1 日時

平成24年1月24日(火) 15:00～16:30

## 2 場所

東京都港区 山崎ビル 会議室

## 3 出席者 (敬称略)

(主査)	小泉 力一	尚美学園大学大学院教授
(委員)	浅川 玲	日本放送協会
	荒木 浩一	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
	伊藤 求	ニフティ株式会社
	尾花 紀子	ネット教育アナリスト
	勝村 幸博	株式会社日経BP社
	川上 隆	学校法人岩崎学園
	清貞 智会	グーグル株式会社
	小屋 晋吾	トレンドマイクロ株式会社
	近藤 則子	老テク研究会
	佐竹 正範	ヤフー株式会社
	里中 慧	株式会社ミクシィ
	杉浦 昌	日本電気株式会社
	高橋 正和	日本マイクロソフト株式会社
	千原 啓	グリー株式会社
	長島 武生	日本電信電話株式会社
	平尾 芳郎	ソフトバンクモバイル株式会社
	藤本 浩司	株式会社電通
	前田 典彦	株式会社カスペルスキー
	村上 智	株式会社シマンテック
	本橋 裕次	マカフィー株式会社
(事務局)	占部 浩一郎	内閣審議官
	泉 宏哉	内閣参事官
	木本 裕司	内閣参事官
	花岡 一央	参事官補佐

#### 4 資料

資料1 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ第2回会合 議事要旨

資料2 平成23年度情報セキュリティ月間における取組

資料3 情報セキュリティの普及啓発に関する議論の進め方(案)

資料4 今後のスケジュール

参考資料 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ委員名簿

参考資料 平成23年度「情報セキュリティ月間」の実施について(報道発表資料)

#### 5 議事概要

##### (1) 平成23年度情報セキュリティ月間における取組事項の集約結果の確認

事務局より資料2に沿って説明後、委員による意見交換が行われた。委員等からは以下のような意見が述べられた。

- 当社では複数社のコミュニティで、パッチを当てようということを伝えていく。ポータル、Facebook、メディア向け記者会見等で、どうやればパッチが当たるか、新しい製品が今の攻撃に対してどんな工夫をしているのか、IPAのツールを用いたバージョンチェックの紹介などを行う。
- スマートフォンのセキュリティについて必要なことの認識にかなり格差がありそうなので、アンケートをしようと思っている。
- 標的型メール攻撃への対策等についての車座集会は、自分たちのセンシティブな情報を出さなければならないので、メディアへの見せ方をどうするか難しいとは思いますが、国がやっていることを知らせるのは非常に大事であり、取材対応するのはいいと思う。
- スマートフォンのセキュリティソフトは、PCと比べCPUパワーも少ないことから機能的に苦しい現状があり、セキュリティソフトを入れていけばOKとはいえない。ちゃんとしたアプリケーションの一部に変なものを付加したアプリケーションがマーケットに置かれることもあるため、アプリケーションを提供している組織の協力も得るなど、もう少し対策を広げてはどうか。
- アンチウイルスソフトは、ウイルス・マルウェアは検知できるが、位置情報等プライバシー情報に類するものを持っていくようなアプリケーションについては、アプリケーション自体は悪くないため検知しない。個々のユーザが嫌だと思えるものをアンチウイルスソフトで止められると受け止められるとよくない。
- 10秒や15秒のちょっとした動画がほしい。イラストや文章だけよりは訴求力があると思う。
- 当社のメインテーマはスマートフォンである。道行く人にスマートフォンの設定を聞き、専門家がアドバイスするような、簡単な動画を作って公開する予定である。
- 一つやり方として動画サイトへの投稿が考えられると思う。どんな動画が投稿されるかチェックしている人もいるため、面白いものがあると掲示板などで勝手に宣伝してもらえる可能性がある。いつもとは違う層に動きを知ってもらえる

かもしれない。

- エンジニアはフィルタリング等のセキュリティシステムをきちんと管理して更新の仕方等を消費者目線で伝える役割がある。消費者はセキュリティシステムを通過してきた最低限のものを自己責任で判断する役割がある。この一連の流れは携帯・パソコン、企業・個人・学校問わず一つの説明で済む。パッと見て分かって誰にでも説明でき、みんなが意識できるようなものをひとつ掲げてみたらどうか。
- スマホの場合、セキュリティの話とプライバシーの話が混同されがちである。地図が提供されるなら位置情報を提供しますという、それはリスク受容している話であり、ユーザは選択できればよい。パスワードや決済情報と、位置情報等のプライバシー情報と、ユーザが何をリスク受容して何を受容しないかを明確にする意味で、もう少し対象を絞ったほうがよいのではないか。
- 仕組みがわからないがゆえに理解できないという層が多いと思う。プライバシーと本来のセキュリティとは違うため、区別して理解する必要がある。

## (2) 情報セキュリティの普及啓発に関する議論の進め方

事務局より資料3に沿って説明後、委員による意見交換が行われた。委員等からは以下のような意見が述べられた。

- 例えば、これぐらいの規模だったらこのようなやり方で成功している例があるとか、参考になるようなモデルケースや成功例を挙げられれば議論を進める際の参考になるのではないか。
- 無関心層と高齢者が一括りでいいのか。案どおりに初心者・高齢者、企業経営者・従業員、子ども・家庭の三つに分けるとしたら、それぞれの対象に無関心者がいると思う。
- 無関心層、高齢者、もしくは企業のセキュリティ意識をどうやって高め、備えていくか、その際どういうことに留意すればいいかという議論は比較的やりやすい。
- 具体的な取り組みに繋がられるものがひとつでもふたつでも出たほうがよい。ターゲットをある程度絞った上で、方法なり手段を議論していくのがよいと思う。
- IPAは大学卒業生に取得してもらうぐらいのレベルの入門的な資格にまで手を広げている。一方で、一般の人にセキュリティを普及啓発するのは、技術者向けとは違うテクニックや内容もあると思われるため、少し先のスコープとして普及啓発人材の育成もあるかと思う。
- 無関心な方にこっちを向いてもらうのが一番難しいので、考える順序として、高齢者の方にターゲットを絞って議論を始めてはどうか。その後ターゲットを子供や学生に変えると作りやすいと考える。
- 高齢者と若者のどちらの年代が危ないのかというのは迷うところである。
- 社会に出る前の層と、社会的な役割を一通り経験された層と、二つのポイント

トでやってもいいかと思う。社会に出る前の層がシニア層の人たちに教えに行くようなコミュニケーションの場があればいいのではないか。人に教えることによって覚えるし、セキュリティ意識も身に着く。

- (3) 今後のスケジュールについて  
事務局より資料4に沿って説明。

－ 以 上 －